当事者セミナー Vol.7

自分の「働く」を創ろう

社会福祉法人　多摩棕櫚亭協会　　障害者就業・生活支援センター　オープナー

【目　次】

- 当事者セミナー報告（P2～6）
- オープナーメンバーへの事前アンケートの目的（P7）
- アンケート調査からみえる基礎データ（P8～19）
- ７つの項目のアンケート結果と分析データ（P20～26）
- 談話室でもアンケート結果の傾向について話し合ってみました（P27）
- 当事者セミナーのアンケート一部抜粋（P28）
- 働きたい方へのメッセージ（P29～33）

当事者セミナー報告

平成３０年２月９日（金）昨年に続き、立川グランドホテルで**『シリーズ第 7 弾！働く当事者からのメッセージ 自分の『働く』を創ろう～変わるのは、『今』～』**を行いました。例年同様、デイケア、作業所、病院、ハローワークなど普段からお世話になっている関係機関に声をかけさせていただき、当事者、支援者含め総勢 **111 名**と多くの方々が会場に足を運んでくださいました。

このセミナーは通称、**「当事者セミナー」**と呼んでおり、オープナーが 1 年で 1 番力を入れているといっても過言ではないセミナーです。なぜなら、このセミナーの目的は**『当事者から当事者へのメッセージ』**であり、働いている方から働きたい方に直接生の声をお届けできる機会だからです。今回も現在就労しているオープナー登録者の 5 名の方々に登壇していただきました。

当日の登壇メンバー、5 人中 4 人の方は実は**大きな舞台でのデビュー**でした。事前の打ち合わせでも伝えたい・話したいことがたくさんあり、打ち合せ時間が延びてしまいました。スタッフとしては、「これだけの熱い思いをどう伝えるか」ということをどのように表現するか？また、オープナーが年間通して行ってきていた**「近隣施設への出前講座」「働く当事者が集まる談話室」**の集大成を目指しました。

また今回の当事者セミナー開催にあたりどういうセミナーにしたいか、オープナー職員同士でプレゼンテーションを行い、意見を出し合いました。そして就労しているオープナーメンバーの働く準備から定着するまでの実感をどのように伝えたらいいか、趣向を凝らした結果、オープナー登録者にアンケートを実施することに決めました。そうして事前に 59 名の方にアンケートをとることができました。

1 部では、**みずほビジネス・チャレンジド株式会社 企画部 職場定着支援チーム サブリーダー 大森 理智氏**と**立川市社会福祉協議会 N 氏**、**オープナースタッフ川田**の 3 者で「それぞれが思う「働く」とは」をテーマに意見交換を行いました。

3 人が共通していたポイントとして、働く前に『自分にあった生活リズムをもつ』『働く上での健康管理が大切』『自分をよく知っておく』ということでした。

意見交換は下記の内容で、とても多岐にわたりました。

- N 氏の障害者雇用を選択するまでの歴史
- 働く前に必要なこと・働いてからも大切なこと
- 給与面のこと
- 定着するとは？
- 仕事と生活のバランスとは？

全てをご紹介したいところですが、ここではほんの一部をご紹介します。

N 氏の**「障害を受け入れることが嫌だった」「普通になりたかった」**という想いと障害者雇用を選択した葛藤など、就労までの心と身体の準備期間についての話から始まりました。誰もが確固たる動機があるわけではなく、就労準備をしていく中で、周囲からの刺激を受けながら、流れに乗りながら自分の人生を選択していくことも大切なことを発信してくれました。また、働き続

けるためには職場にいい先輩がいて、近づきたいという気持ちがモチベーションにつながるという話が印象的でした。

大森氏からは、モチベーションの維持について社内面談を行う時、**「仕事とは、毎日同じことを繰り返すこと。刺激が多いことはほとんどなく、刺激を求めていくことは心労も重なってく。淡々と粛々と進めることの大切さとモチベーションの維持を同時に考えて欲しい」**と伝えているとのことでした。

私が思ったこととして、人事考課など、きちんとした会社からの評価・フィードバックを受けることで、帰属意識を持つことができモチベーションの維持につながるのではと登壇中もお伝えしました。

他にも大森氏からの話では、企業からの視点ということで、「働く前に必要な準備」と「働いてからも大切なこと」にわけて説明をしていただけました。

働く前に①適切な健康管理と生活リズムを身につける②働きたいと思う理由を明確にする③素直になり、身の丈を知るということでした。私は、この３つのポイントの話を聞いたとき、働く前に**「自分なりに自分のことをよく知っておくこと」**がまずは就職に向けたスタートになっていることを改めて感じました。とくに仕事と生活は表裏一体のため、ストレスの自覚と自分なりの発散方法をもっておくことが、適切な生活リズムであり、働くための土台になることもお話くださいました。

働いてからも大切なこととして①適切な健康管理と生活リズムの継続②他者と比べない、初心を忘れない③身の丈の伸び代を知るということでした。

話をしていただく中で「伸び代は誰にでもある。10 できることをそのままにしない。かといって 15.16.17 と挑戦すると失敗する可能性が高くなる。10 できれば 11.12.の仕事を目指してほしい」という言葉とても印象的でした。

この言葉は、オープナーでもよく「頑張りすぎてしまう」というご相談があるなかで、これから働きたい当事者の方達に届いた言葉だったと思います。

「定着するとは？」についての投げかけに対し、それぞれの考え方に違いがあり、興味深い内容になりました。

働き始めてもうじき 3 年になる N 氏からは「今はまだ定着したとは思っていない。今は相談をする側で、これから相談を受ける側になって、仕事を回していけるようになったときに、会社にとっていないと困る存在になると思う。その時がきたら定着だと思う」という思いがありました。大森氏からは「その方が定年退職を迎えた日が職場定着と思っている。１つの会社だけではなく、転職ありきではないが、１つの方向性として会社が変わっても働き続けていれば職場定着」という考え方をお話いただき、私からは「働き始めても悩み・心配ごとは続く。相談しながら解決していくことが定着」という話をさせていただきました。

つい職場定着というと、今働いている職場で長く働き続けることで定着という考え方を持ちやすいですが、社内での立場を考えることであったり、違う会社でも働き続けているということになることが、新しい発見にも繋がったようなメッセージだったように感じました。

今回のセミナーでは、普段なかなか聞くことができない、給与面についてつっこんだやりとりもありました。

障害者雇用を検討している誰もが気にするであろう不安材料の１つ、「障害者雇用全体としての給与の低さ」について、N 氏から大森氏にずばり質問していただきました。

大森氏からみずほビジネス・チャレンジド株式会社という特例子会社の場合は、委託費からの捻出なるため、給与分配できる金額が決められている。自分の仕事以外のことでの貢献度・生産性や役職につくことなどが給与アップに繋がる話など、普段企業からは話しにくいような内容についての話もしてくださいました。

もちろん障害者雇用のメリットもあり、N 氏からは上司と手探りではあるが、自分にあった方法で段階的に仕事の幅を広げ

てくれているという話もありました。

今回の１部では、企業・働く当事者Ｎ氏・オープナーという３者の視点から様々な話をした中で、冒頭で記述したポイントでの就労準備の重要性と相談力をつけていくことの大切さについては３者が一致していましたが、職場定着については、それぞれが違うということもわかりました。

「相談しながら自分の人生を選択していく。選択していくためにも客観的な意見を柔軟にとりいれていく」ことがメッセージになっていたと思います。

また、大きな課題についてのメッセージもあったと思います。

今回はみずほビジネス・チャレンジド株式会社という特例子会社での話でしたが、障害者雇用での人事考課の導入を検討している企業や給与面で安心できる企業は、まだまだ少ないのが現状です。一方で、配慮を受けながら短時間での勤務の方も大勢いる中で、それに見合った給料であるのもまた、事実です。障害年金や生活保護など、各種制度を活用しながらでも、「働いているのに給料だけでは生活が大変」という声をどのようにして社会に届けていくのか？

障害がある方達が金銭的にも安心して地域で暮らせる社会作りを目指していきたいと思える１部になりました。

２ 部では、アンケートを勤続年数別や生活スタイル別（同居、一人暮らし、グループホームなど）に分析し、働いている方々のいろいろな傾向が見えてきました。その分析結果をもとに、４ 名の登壇者の方に自分の経験や現在感じていることをパネルディスカッション方式でお話していただきました。

①職場での自分を創るって？

②相談相手はなぜ必要？

③就業生活ってなんだろう？仕事だけではだめなの？

という３つの問いにまとめ、アンケートから見える結論を発表し、その後登壇者の方にも意見を聞いていきました。

まず**「①職場での自分を創るって？」**のアンケートの結論は、入社当初は自分のことで精一杯で、指示されたことだけをしっかり行う受身の働き方から、徐々に周りの人たちとコミュニケーションをとるようになり、自分から仕事をもらいにいく主体的な働き方に変わっていくという変化が出てくるというものでした。登壇者の方々も「最初は認められたいと必死」「徐々に自分の出来る範囲と職場でやるべきことが見えてくるようになる」などの意見があり、長期に働くことで職場での自分の立ち位置が変わってくることを実感してくる意見に賛同していました。

次の**「②相談相手はなぜ必要？」**のアンケートの結論は、業種・年齢・職場環境などに関わらず人間関係の悩みが最も多い仕事の悩みでした。その対処方法は相談すること、ただし勤務年数が １ 年を過ぎたあたりから相談相手が支援者から上司や同僚、友人へ広がっていくことがわかりました。登壇者にその事実を伝えると「最初は職場のどの人にどの相談をしていいかわからない。けれど、だんだん相談内容によって相談相手を誰にすればいいのかわかってくる」「自分と同じように頑張って働いている当事者と話をすることによって、救われていることが多い」など、自分にあった相談相手をそれぞれに広げていっているようでした。

３つ目に**「就業生活ってなんだろう？仕事だけではだめなの？」**の問いには、安定した就業生活を送るためには「自分の自由な時間（余暇）」「健康管理」「生活面」のバランスをとっていくことが大切というアンケートの結論を出しました。４ 人の登壇者はそれぞれ異なった生活スタイルを持っており「週末の楽しみを自分のご褒美にしている」「無理やり外に出るようにして意

識して気分転換の時間をつくるようにしている」「家事を頑張り過ぎない」など、それぞれの工夫を話してくださいました。

最後には初の試みとして、オープナーメンバーとスタッフが一緒に行っている「グラッシーズ」のバンド演奏で幕を引きました。

曲は「足跡」というタイトルです。

歌詞はメンバーの言葉です。

今まで・今の自分を見つめてこれからも一歩ずつ歩んでいくことをテーマにしています。

【足跡】

できることより出来ないことが　多いんだよね
行けるところはこの辺までだって　分かってる
沢山歩いた距離より　どこを歩いてきたのか
遠回りでも　あきらめない

足踏みしている　　その場所も
確かにいる私の　　姿がある

息切れしたら一休み　　楽しむ自由と時間
靴をはき直してまた　　歩みはじめよう

楽しい事ばかりして　生活できたらいいなぁ
でも足りないことだらけで、欲しいものがこぼれていく
頭の中の世界が現実だと　思い込んでいく不安
本当の現実の中で傷つき　そして喜びたい

ここまで歩いてきた　ほどけかけの靴ひもで
ふと足元に気付いて　立ち止まる

靴ひもを結び直して　これから
新しい足跡を残していく

小さくてもいいから　　少なくても構わない
幸せを実現していこう

全体を通して今回の当事者セミナーで伝えたかったメッセージは、働くためには土台となる健康管理・日常生活を送る力が必要だということ、そして働くことで色々な悩みは出てくるけれども、それを相談しながら乗り越えていくことで自分が成長につながるということです。そのために今出来ることは何なのか、今働きたいと思っている方たちにとって考えるきっかけになってもらえたら嬉しいです。

今回、オープナー登録者の方々が快くアンケートに協力してくれ、その中に長く働く秘訣がたくさん詰まっていることを感じました。支援者が支援できることには限界があります。だからこそ、**ご本人が働き方を自ら変化させていく力が必要であり、働くことで自分が創られていく**のだと思います。登壇者の方が「今は支援者に相談することはないけれども、何かあった時に支援者がいると思えるのは心強い」と言ってくれました。その言葉を聞いて、ただこちらがアクションを起こすだけが支援ではないのだとハッとさせられました。

当事者セミナーに参加頂いたアンケートの中で**「N さんのお話しの中で、健常者に近づくことはできても完全に健常者に戻ることは出来ない悔しさや葛藤があるという私の気持ちと重なりました。そういう気持ちを持っていいんだと思うことができて、これから自分を肯定して生きていくきっかけになりました」**とう感想や**「自分らしさを改めて見つめて、生きていきたいと思い、人として大切なことに気づかせてもらった。辞めないために必要な『素直になって相談すること』は働き続けるために大事な秘訣だと思った。」**という意見など多くの反響がありました。

今回の当事者セミナーでは、登壇者の方々から参加者の方々に働く活力となるメッセージをたくさん受け取っていただけたように感じます。

これからもオープナーから働きたいと思えるパワーとなるメッセージを、障害と付き合いながら働きたい方々に届けて続けていきたいです！

社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会
障害者就業・生活支援センター オープナー
川田俊也 本田美咲 吉岡誠 矢崎詩織

☆働いているオープナーメンバー59 人にアンケートの協力をしてもらいました☆

～目的～

　現在就職しているメンバーに、今だから思う働く準備で必要だと思うことや定着している今感じていることなどの生の声を聞き取り、これから働きたい方に伝え、届けるため！

　アンケート集計後、その中からピックアップした７つの項目について生活スタイル別や勤務年数別に分けて、そこから何か傾向がみえてこないか、分析してみました。

　すると！予想していなかったことや働いているからこそわかることなど、いろいろなことが見えてきました。実際のところをみていきましょう！！